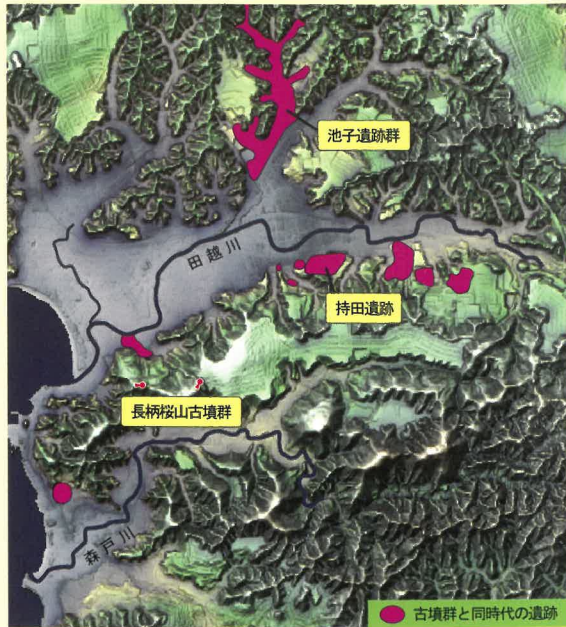


古墳周辺の遺跡

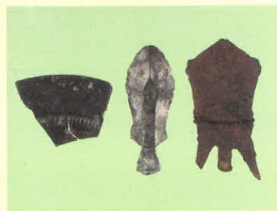
古墳群がつけられた頃に営まれた周辺のムラは、田越川中流の左岸の丘陵地に集中して見つかっています。逗子市持田遺跡からは古墳の副葬品に納められることが一般的で、ムラから出土することが稀な、石釧と呼ばれる腕輪形の石製品が出土しています。また、右岸の池子遺跡群からも、やはり稀少な銅製の鏡や鏃などが出土しています。田越川に沿って進めば最短で相模湾と東京湾を往来できることから、この地域は物資流通の拠点であったと考えられます。



古墳群より南側の三浦半島相模湾沿岸には点々とムラが見つかっており、海上交通も重要な役割を果たしたと考えられます。



持田遺跡出土の石釧



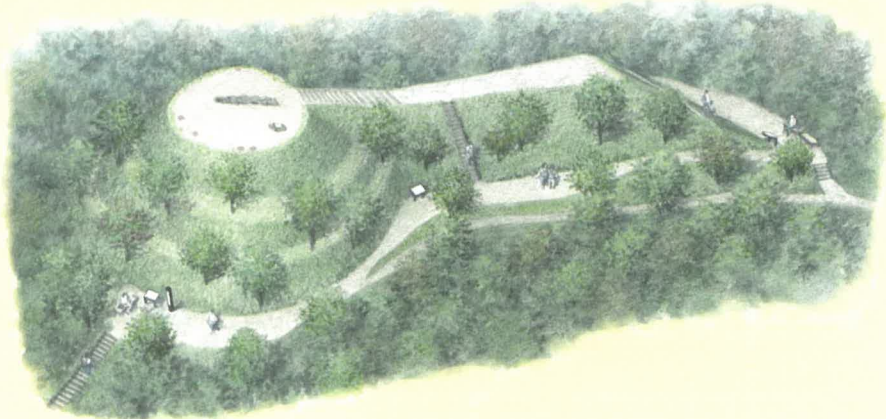
池子遺跡群出土の銅鏡・銅鏃・鉄鏃

長柄桜山古墳群が築かれたこの地域は、まさに当時の太平洋岸における物資流通の重要な拠点であったと考えられ、往来する人々が見上げることができた二基の古墳は、ランドマークとしての役割を果たしたことでしょう。

これからの長柄桜山

平成 11 年 3 月に地元の考古学愛好家によって第 1 号墳が発見されたことをきっかけに現代に蘇った長柄桜山古墳群。逗子市と葉山町では、このかけがえのない文化遺産を後世に伝え残していくために、平成 14 年 12 月 19 日に国史跡指定を受けた後、平成 16・17 年度に指定地の公有化、平成 18 年度から平成 21 年度にかけて第 1 号墳の発掘調査を実施、平成 22 年度には整備基本計画を策定しました。

現在は周囲の豊かな自然環境との調和を図りながら、人々が学び、集い、安らぎ憩う場として整備するという理念のもと、保存と活用に向けた整備事業を進めています。第 1 号墳については、墳丘や埴輪を保護するための盛土や植栽、階段の設置、園路の整備、説明板や案内板の設置を計画に沿って進めています。



第 1 号墳整備イメージ図



利用案内

- 付近に駐車場はありません。最寄りのトイレは蘆花記念公園内のみです。
- 第 1 号墳へ
JR 逗子駅前バスのりば 4 番「葉桜」行 約 8 分
終点「葉桜」下車。葉桜住宅端ののぼり口まで西へ徒歩約 6 分
そこから階段路を 3～5 分（高さ約 25m）のぼる。
※現在第 1 号墳は墳丘保護及び整備工事のため、古墳にのぼることはできません。

- 第 2 号墳へ
○逗子側（2 号墳西側）から
JR 逗子駅前バスのりば 1 番「南郷中学校（海岸回り）」行、3 番「葉山（海岸回り）」行
それぞれ約 5 分、「富士見橋」下車。蘆花公園内ののぼり口まで徒歩約 5 分
そこから階段路を約 10～15 分（高さ約 90m）のぼる。
○葉山側（2 号墳南側）から
JR 逗子駅前バスのりば 1 番「上山口小学校」行、「衣笠」行、「湘南国際村（山手回り）」行
JR 逗子駅前バスのりば 2 番「葉山（山回り）」行、「大楠芦名口」行、「横須賀市民病院」行、「長井」行、「佐島マリーナ」行、「電力研究所」行
それぞれ約 5 分、「長柄交差点」下車。桜山トンネル脇ののぼり口まで徒歩約 3 分
そこから階段路を約 10～15 分（高さ約 90m）のぼる。

問い合わせ

逗子市教育委員会教育部社会教育課文化財保護係
〒249-8686 逗子市逗子 5-2-16
TEL 046-873-1111（代表）
葉山町教育委員会教育部生涯学習課
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内 2050-9
TEL 046-876-1111（代表）
編集・発行：逗子市教育委員会・葉山町教育委員会
発行日：平成 30 年 2 月 1 日

国指定史跡
National Historical Site

なが え さくら やま こ ふんぐん
長柄桜山古墳群
Nagae-Sakurayama Ancient Tumuli



長柄桜山古墳群

長柄桜山古墳群は、平成 11 年（1999 年）3 月に、逗子市と葉山町の境にある丘陵の上で新たに発見されました。2 基とも 4 世紀代の前方後円墳で、現存している神奈川県内の古墳では最大級の規模を誇ります。



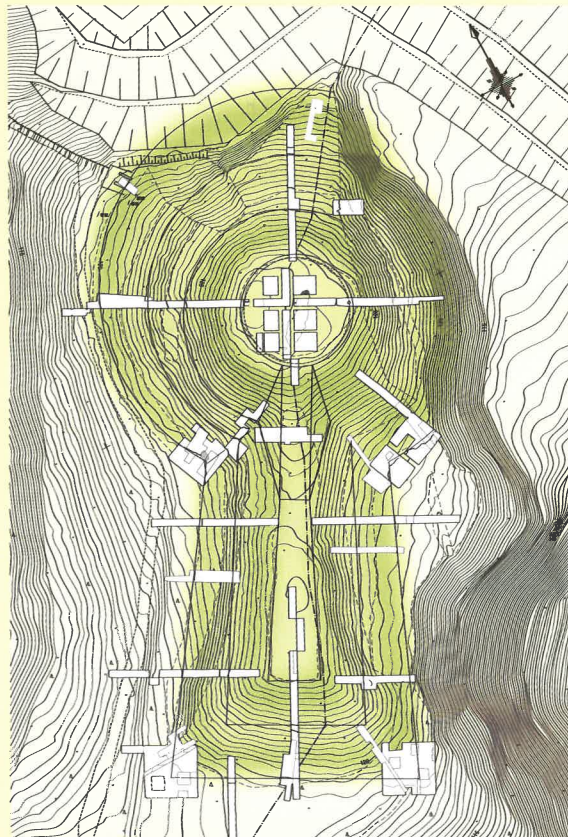
空から見た長柄桜山古墳群

第1号墳

時期 古墳時代前期後葉
(4 世紀後葉)
 主軸方位 N-28° -E
 全長 91.3m
 後円部径 52.4m
 前方部長 38.9m
 前方部幅 33.0m
 くびれ部幅 24.2m
 墳頂部比高差 3.4m

葉桜住宅の西端から 25m ほど丘陵を登ったところにある前方後円墳です。墳丘は後円部三段、前方部二段につくられており、後円部と前方部の比高差（高低差）が大きい前期古墳の特徴をもっています。丘陵の岩盤を削り出した後、その上に最大約 1.5m の盛土を施しています。後円部墳丘は左右非対称で、現在の逗子市街地が広がる田越川流域や逗子湾から望むことのできる西側を整った形につくり出しています。

後円部には埋葬施設を囲うように埴輪が並べられていたほか、埋葬施設陥没坑の脇からは、祭祀に使われた土器が見つっています。



第1号墳 (1/1000)



整備工事前の第1号墳

発見された埋葬施設の痕跡

第1号墳の後円部墳頂部の表面では、長さ約 7 m、幅約 1.6m の落ち込みが確認されました。写真中央の黒い部分は地下に収められた木棺が長い歳月を経て腐食してつぶれたため、古墳の表面が落ち込んだ痕跡（＝陥没坑）です。部分的に掘り下げた結果、陥没坑の真下には粘土槨が存在することを確認しています。



第1号墳後円部墳頂部陥没坑



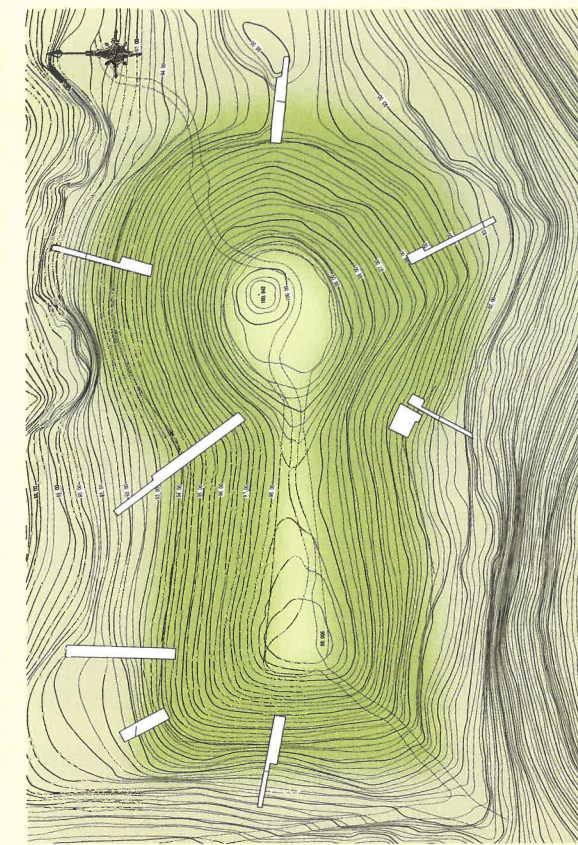
第1号墳くびれ部から出土した埴輪

第1号墳から出土した埴輪

第1号墳からは古墳に並べられた埴輪がたくさん出土しています。三角形の透かし孔が開けられた円筒形の埴輪（写真①）と底がない壺形の埴輪（写真②・③）があります。埋葬施設の脇からは、葬送祭祀に使われた壺や高坏（写真④）などの土器が出土しています。



▼第1号墳出土埴輪・土器イメージ図
破片となって出土した左写真の埴輪の元を復元すると、下の図のようになります。



第2号墳 (1/1000)



現在の第2号墳

第2号墳

時期 古墳時代前期後葉
(4 世紀後葉)
 主軸方位 N-88° -E
 全長 88m
 後円部径 54m
 前方部長 34m
 前方部幅 45m
 くびれ部幅 32m
 墳頂部比高差 1.89m

第1号墳から尾根筋の遊歩道を西へ 500m ほど向かったところにある前方後円墳です。後円部と前方部の比高差があまりなく、前方部は第1号墳に比べると幅広となっています。古墳の作りかたはまだよくわかりませんが、古墳の表面には砂岩や丘陵岩盤の泥岩を用いた装飾一尊石が施されていることが明らかになっています。第2号墳からも円筒埴輪と壺形埴輪が見つかり、第1号墳と同様、墳丘上に立て並べられたものと考えられます。

前方部から西側には、相模湾に浮かぶ江ノ島をはじめ、天気良ければ大山や富士山を一望することができます。

第2号墳で発見された葺石

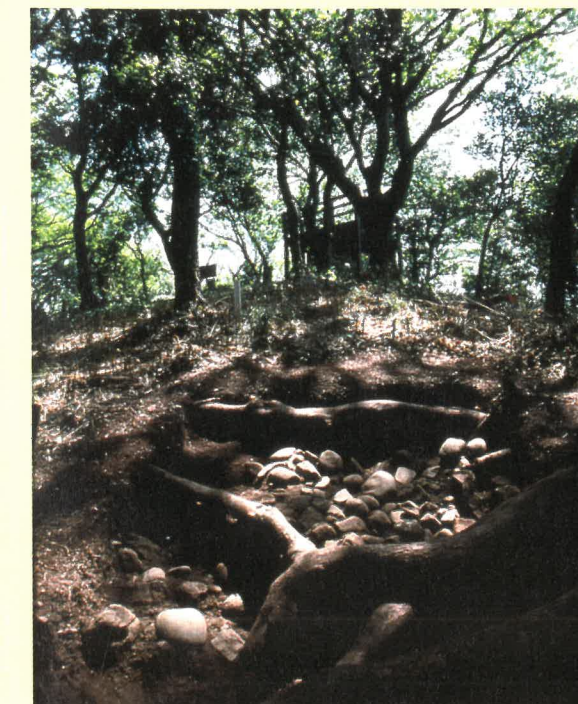
第2号墳の表面には、拳大の石を貼りつけた、葺石と呼ばれる装飾をしています。

現在は土で覆われていますが、築造当時は太陽に照らされて白く輝いて見えたでしょう。

1号墳と2号墳、どちらが最初に造られたの？

2 基の古墳に付けられた番号は、築造順ではなく、発見された順番です。出土した遺物や古墳の形、立地状況などから築造順序が推測されていますが、決め手がないのが現状です。

古墳分布の空白域であった三浦半島の付け根に突如2基の前方後円墳が立て続けに造られますが、その後この地域で大形の古墳が築かれることはありませんでした。



第2号墳で発見された葺石